



(金 沢)

石川・畝田ナベタ遺跡

- 1 所在地 石川県金沢市畝田東三丁目
- 2 調査期間 二〇〇〇年(平12) 四月～二月
- 3 発掘機関 (財)石川県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 白田義彦・布尾幸恵
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本遺跡は金沢市西部の海岸平野に位置する。周辺は、戸水C遺跡、戸水大西遺跡、藤江B遺跡、金石本町遺跡など、古代の荘園・官衙関連の遺跡が集中する地域である。

本遺跡の調査は、土地区画整理事業に伴って実施された。きわめて規則的に配置された大型の掘立柱建物群を主体として構成され、官衙関連施設と推定されている。広場的な空地には、

掘形三m×三m深さ二mの、石川県下で最も大きい縦板隅柱横棧留めの井戸SK一〇七が検出され、多数の斎串や獣骨が出土している。遺物は須恵器・土師器が主体で、時期は九世紀～一〇世紀前半である。墨書土器は「東〇」が最も多く、「館」「宅万呂」「射水」「×」「三」なども出土している。

木簡が出土したSD六七は、調査地の西端に位置する、最大幅一〇m最深三mの自然河道である。出土遺物から、掘立柱建物群とほぼ同時期に機能していたものと考えられる。ほかに須恵器・木製皿・編物・漆塗り形板・漆附着土器・貝類などが出土している。

8 木簡の釈文・内容

- | | | | | |
|-----|--------------------|-------|-------------|-----|
| (1) | □上□□ | 〔六十カ〕 | (33)×(28)×4 | 081 |
| (2) | 〔酒流女一石余〕 | | 160×31×3 | 032 |
| (3) | 〔盗カ〕
□盗□□
□酒 | | | 091 |
| (4) | 〔須□女一石一斗〕 | 〔留カ〕 | 147×24×2 | 032 |
| (5) | 〔否益一石一斗〕 | | 170×18×5 | 032 |
| (6) | 〔比田知子一石一斗〕 | | 170×18×5 | 033 |



(2)(4)(5)(6)は付札である。上下端とも表・裏面に切り込みを入れて折っている。(4)は、切り込み部分が一部欠損する。(3)は、習書木簡の削屑。

9 関係文献

(財)石川県埋蔵文化財センター『石川県埋蔵文化財情報』六(二〇〇一年)

(布尾幸恵)

木簡研究 第一六号

巻頭言

吉田 孝

一九九三年出土の木簡

概要 平城宮跡 平城京跡右京二条三坊四坪 薬師寺旧境内 大安寺旧境内 興福寺旧境内 東大寺 阪原阪戸遺跡 藤原宮跡 藤原京跡 右京九条四坊 飛鳥京跡 定林寺北方遺跡 金剛寺遺跡 下茶屋遺跡 長岡京跡(1) 長岡京跡(2) 平安京跡左京三条三坊十三町 大坂城跡(1) 大坂城跡(2) 大坂城下町跡 若江遺跡 西ノ辻遺跡 袴狭遺跡(1) 袴狭遺跡(2) 砂入遺跡 祢布ヶ森遺跡 見蔵岡遺跡 木梨・北浦遺跡 藤江別所遺跡 阿形遺跡 伊勢寺遺跡 御殿・二之宮遺跡 東中館跡 長崎遺跡 八幡前・若宮遺跡 大宮遺跡 三堂遺跡 鴨田遺跡 大戌亥遺跡 杉崎廃寺 元総社寺田遺跡 南A遺跡 安子島城跡 山王遺跡 今塚遺跡 弘田柵跡 福井城跡 一乗谷朝倉氏遺跡 戸水大西遺跡 西念・南新保遺跡 八幡林遺跡 宮長竹ヶ鼻遺跡 タテチョウ遺跡 円城寺前遺跡 古市遺跡 郡山城下町遺跡 周防国府跡 初瀬遺跡 船戸遺跡 ヘボノ木遺跡 原の辻遺跡

一九七七年以前出土の木簡(一六)

平城京跡左京一条三坊十五・十六坪

沖縄の呪符木簡について

いまに息づく呪符・形代の習俗

文書木簡はいつ廃棄されるか

史料紹介 近世の畳の頭板について

史料紹介 近世の荷札木簡の一例

彙報

頒価 五五〇〇円 送料六〇〇円